カトリック中央協議会
CATHOLIC BISHOPS' CONFERENCE OF JAPAN

〒135-8585 東京都江東区潮見二丁目10番10号　日本カトリック会館内
℅ JAPAN CATHOLIC CENTER,
10-10, SHIOMI 2-CHOME, KOTO-KU, TOKYO135-8585, JAPAN
Key Tel. 03-5632-4411・Fax. 03-5632-4453

PROT.NO.

CML2016-07

2016年6月23日

>>プレスリリース<<

ユスト高山右近の列福式、2017年2月7日、大阪市で

教皇庁国務省（長官：ピエトロ・パロリン［Pietro Parolin］枢機卿　［出身国 イタリア共和国］）は、ユスト高山右近殉教者の列福式を、2017年2月7日(火) 正午から、大阪市で執り行うと発表しました。会場は大阪城ホール(大阪市中央区大阪城、収容人数 約1万2千人）を予定しています。右近は、本年1月21日に教皇フランシスコが殉教者として列福を承認しています。

列福式の主催は教皇庁国務省ですが、実際の開催準備は、日本カトリック司教協議会とカトリック大阪大司教区が組織する列福式実行委員会が行います。また教皇フランシスコは、列福式の司式のため、教皇庁列聖省長官アンジェロ・アマート（Angelo Amato）枢機卿（出身国 イタリア共和国）を教皇代理として日本に派遣します。

列福式への参列希望者に入場整理券（無料）を配布いたします。その申し込みや受け取りなどについては、列福式実行委員会からまもなく発表されます。

この件に関するお問い合わせ先
日本カトリック司教協議会　列聖推進委員会 事務局
担当: 平林冬樹、寺村淳子
〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10　日本カトリック会館
電話；03-5632-4445、FAX：03-5632-4465

カトリック大阪大司教区事務局 企画広報課
〒540-0004 大阪市中央区玉造2-24-22
カトリック大阪大司教区本部事務局　担当: 田治一仁
電話：06-6949-8925、FAX：06-6946-1345

（以下、添付資料5枚）

列福されるユスト高山右近殉教者

新たに福者の列に加えられるユスト高山右近（1552 年･天文 22 年 摂津の国 高山生～1615 年･慶長 20 年マニラ没）は、安土桃山時代から江戸時代初期にかけて、人びとに大きな影響を与えたキリシタン武将として広く知られています。織田信長や豊臣秀吉らの信頼を得て重用され、栄達を約束された道を歩むかに見えました。しかしキリスト教に対する政策を大転換した豊臣秀吉から信仰を捨てるよう厳命されたとき、信仰を守って改易されました。加賀の国の前田家に身を寄せながら領民に慕われた右近でした。しかし 1614 年に徳川幕府が打ち出した厳しい禁教令のもとでも信仰の自由を守りぬき、同年末、祖国を追われてマニラに流されました。右近は、キリスト教国であったフィリピンの首都マニラで大歓迎を受けましたが、直後に病を得、翌 1615 年 2 月 3 日未明、静かに息を引き取りました。

才能、財産、地位、名誉で人間に優劣を付けようとする社会的な価値観で見るなら、大名を改易された後の右近は、没落の一途を辿ったように思われるかもしれません。しかし揺るぎない永遠の愛で人を生かす神への信仰に生きた右近は、迫害を受けたとしても、いっそう幸せになる道を進んだといえるでしょう。人が、真に人として生きる道は、ここにしかないという確信です。

福者とは

教会は、ある人びとの死後、その人びとを聖人や福者に認定する習わしがあります。これは、いわゆる叙位叙勲制度とは、まったく異なります。キリストがもたらした福音に真の救いがあることをその生き方によって示し、信仰のあかしにおいて模範を示した人びとを、教会は、聖人・福者であると宣言し、キリストに従う道を示す模範として、特別な尊敬を払ってきました。福者は、聖人に認定される前の段階であり、聖人と福者の間には、優劣の差はありません。聖人は、全世界の教会において公の礼拝の場で祝われます。他方、聖人の前段階である福者は、おもに出身国の教会の礼拝で公に記念されます。日本の教会では、パウロ三木やトマス西ら 42 人が聖人に。ペトロ岐部や中浦ジュリアンら 393 人が、福者の認定を受けています。

殉教者とは

信仰は、理論や理念を納得して受け入れるのではなく、人間を愛し救う神を全人格で受け入れることです。信仰は論理的な説得ではなく、あかしによって伝わります。あかしには、いろいろありますが、もっとも説得力をもつのは、自己のいのちをかけたあかしです。いのちをかけて信仰をあかしした人を、教会は、殉教者として、その生き方に倣おうとします。おもに次の三点が揃ったあかしが殉教と認められます。

第一は、迫害によって実際に殺害されるか、殺害を視野に入れた拷問や投獄による死です。第二は、迫害者の意図、すなわち、迫害する側の明確な意図は、信仰への憎悪と反感であること。被迫害者の意図です。第三は、迫害される側が、死に至るまで迫害を甘んじて受けたその動機が、ただ信仰によると認められることです。右近は、実際に殺されたわけではありません。しかし異国への流罪そのものが、死を見据えたことであり、殺害されたと同様であると認められます。また迫害する幕府も、迫害される右近も、政治的･経済的な意図はなく、ただ信仰の一点を巡ってのことでした。従って、右近の出来事は、殉教と言えるでしょう。

＜参考資料＞

右近の列聖運動の経緯

1. 列福運動の始まり

ユスト高山右近 (以下右近) がフィリピンに到着したとき、その聖徳に対する名声は高く、死後すぐに、列聖運動が起こりました。宣教師として来日し、右近と親交を結んだスペイン人のイエズス会員ペドロモレホン神父(Pedro Morejón, 1562-1639)は、右近の列聖審査を視野に、必要な資料を準備しました。その記録は、同師の手になる「日本殉教録」に記載されています。これらが、近年の列聖運動の基礎資料になりました。

このように右近の列聖運動は、逝去直後に起こりました。しかしその後、鎖国状態と禁教政策が進む日本から必要な資料を手に入れる方法がない困難さなどで、調査の続行が困難になり、列聖運動は、いったん終息しました。

時は移り、1940 年、マニラ大司教は、右近の列聖を教皇庁に申請できる権限 (管轄権) を当時のカトリック大阪司教区に委譲しました。

2. 証聖者として列聖を申請

第二次世界大戦終結後の 1949 年 5 月、右近の列聖申請を行うための全国組織が東京教区内に置かれました。1964 年、右近の列聖申請のための正式な歴史調査を行う委員会が、大阪司教区内に設置されました。同調査は、その後日本カトリック司教協議会の殉教者列福調査特別委員会 (現 列聖推進委員会)に引き継がれ、1986 年 4 月 18 日付けて、右近の列聖を証聖者として申請する資料が、ローマの列聖申請代理人に提出されました。同代理人は、日本側の調査資料を、教皇庁列聖省に提出する正式な列聖申請書に整える作業を進めました。そして 1994 年 6 月 8 日、教皇庁列聖省は、右近の列聖手続きが適正に行われていることを認証し、右近に「神のしもべ」の称号を与えました。

その後、教皇庁列聖省の審査に要する歴史関連資料の改訂を重ねるいっぽう、証聖者としての列福に必要な奇跡の報告を待つことになりました。

3. 列聖申請事由を殉教者に変更

証聖者とは、殉教によらなくても、その生涯をとおして信仰のあかしを立てた人です。殉教者は、反対者の手により、信仰のために直接殺害されることで信仰をあかしする人たちです。右近は、直接処刑されたのではなく、流配の地マニラで病死しました。そこで日本の司教団は、右近を証聖者として列聖の申請を行いました。証聖者での申請の場合、列福のために、重篤な病気の治癒などの奇跡を待たねばなりません。

こうして日本の教会は、一日も早い列福の実現を願い、右近の取り次ぎによる奇跡を求めていました。その後、2011 年 7 月、列聖省長官アンジェロ・アマート枢機卿は、右近の列聖事由を殉教者に変更しました。信仰を理由に直接、殺害されていなくても、右近は劣悪な環境にあって最後まで信仰を守った事実が殉教と認められたのです。殉教者の列福には、奇跡を必要としません。申請書類の審査だけで右近の列福が実現することになったのです。この決定に従い、当委員会は、右近の列聖申請事由を証聖者から殉教者に変更し、列聖申請書の内容を改訂する作業に入りました。そして 2012 年 12 月 3 日、当委員会は、列聖申請書の改定に必要な 600 ページにのぼる資料と図版をローマの申請代理人に送付しました。

4. 教皇による列福の承認

2014 年 7 月 15 日、ローマの列聖申請代理人アントン・ヴィットヴェル師は、上記の資料に基づいて作成した正式の列聖申請書を列聖省に提出しました。2014 年 12 月 2 日、教皇庁列聖省 歴史専門部会、翌 2015 年 6 月 16 日、同神学専門部会、それぞれが、右近の列福を可決。列聖省を構成する高位聖職者による通常会議の最終審査を経て、1 月 21 日、教皇の承認を得たものです。

右近の列福の意義

ユスト高山右近 (以下右近) が生きた 16~17 世紀初頭は、長く続いた戦乱がようやく収束して国が統一に向かう時代です。商業活動が活発化し、金鉱や銀鉱の発見などを背景に貿易が盛んになりました。経済的にも文化的にも活気溢れる雰囲気の中で、人びとは、知恵と才覚さえあれば、誰でも目に見える繁栄や権力、名誉が手に入るという夢をもてました。その気になれば、さまざまな分野で上を目指せる時代だったのです。

そのような時代に、武家に生まれた右近は、キリスト教の信仰に出会いました。右近は、まさに上を目指す戦国武将たちの世界に生まれ育ちました。しかし、いくつかの体験を通して、社会の中で認められる富や権力や名誉が、じつは、はかない、一時的なものに過ぎないことを見抜きました。右近は、実力派の大名と目される人物でしたが、絶えず上を求める権力闘争から身を引き、人間を真に幸福にする信仰の道をあえて選び取ったのです。どのような人でも、無条件に愛される価値がある。その根拠は何か。右近は、人の価値は、才能や知識、能率・効率、業績によるのではなく、無条件に神から愛されている事実によることを、イエス・キリストが伝えた福音から学び取りました。右近の生涯は試練の連続であり、追放に追放を重ねる生活を余儀なくされました。地位も名誉も失い、流浪の生活が続き、ついに祖国を追われても、右近は神だけに愛される幸せを生き抜きます。

神への信仰は、理論で理解できるものではありません。いのちを懸けた証しがあってこそ、信じるに足ると納得できます。殉教者のあかしがあってこそ、福音宣教は可能になるといっても過言ではありません。右近の生き方は、混沌とした現代の状況に翻弄されるキリスト者にとって、神の福音の生きたあかしと言えるでしょう。

現代は相対的価値観に支配され、信念を貫いて生きることが困難な時代です。そして、さまざまな生き方の選択肢を用意する現代、才能や能力の有無という価値観で負け組・勝ち組を振り分けようとする時代にあって、右近は、人間の救いはイエス・キリストの福音によると信じ、何が真の人間の価値であるか、何が人間を真に幸福にするかを見抜き、それに向かって主体的に自分の生き方を選び取り、どのような状況に置かれても、神と人への愛を選びの基準にする道を示しました。右近は、ぶれることなく、一つのことを選び続けたのです。右近が選び続けた道は、福音を聞いて神に従う生き方です。

右近の列福を機に、日本の教会は、右近があかししたイエス・キリストの福音こそ、確かに信じる価値をもち、現代社会に大きな光をもたらすことを力強く訴えていけるでしょう。

右近関連略年表

1549（天文 18）フランシスコ・ザビエル来日、キリスト教を伝える。
52（天文 21）彦五郎（後の右近）摂津国三島郡清渓村高山に生まれる。
60（永禄 3） 室町幕府、宣教師ヴィレラに畿内の宣教を許可する。
63（文禄 6） 肥前の大村純忠、洗礼を受け最初のキリシタン大名となる。父飛驒守が洗礼を受けダリオと名のる。右近、沢城にて洗礼を受けユストと名乗る。ダリオ夫人、家臣など 150 人も受洗。
68（永禄 11）飛驒守、摂津守護和田惟政より芥川城を授けられる。
69（永禄 12）織田信長、ルイス・フロイスに京都宣教を許可する。
71（元亀 2） 高山氏、高槻に移る。
73（元亀 4） 和田惟長、高山父子暗殺を計る。飛驒守、高槻城主に。まもなく隠居して宣教に献身。右近、高槻城主となり荒木村重に属す。
74（天正 2） 右近、摂津余野の黒田氏の娘ユスタと結婚。 高槻に天主堂を建設。
78（天正 6） 荒木村重、織田信長に謀反。右近、高槻城を開城。豊後の大友宗麟が受洗
79（天正 7） 村重側についていた父飛驒守、柴田勝家預けとなり北庄（福井）へ。
80（天正 8） 安土城築城に伴い、安土セミナリオ（神学校）建設。
81（天正 9） 巡察師ヴァリニャーノを高槻に迎え、盛大に復活祭を祝う。
82（天正 10）本能寺の変。右近は山崎の合戦で先陣、4 千石を加増される。安土セミナリオを高槻に移す。父ダリオ、高槻に戻る。天正遣欧使節がローマへ出発。
83（天正 11）賤ヶ岳の合戦。秀吉方で出陣。佐久間盛政に敗北を喫す。大坂城築城にあわせ、大坂南蛮寺（教会）建設。小西行長、黒田孝高（如水）、蒲生氏郷ら受洗。
84（天正 12）小牧・長久手の合戦に参加。
85（天正 13）根来・四国平定に参加。武功を挙げ、播州明石に転封。明石教会建設。
86（天正 14）イエズス会日本準管区長ガスパル・コエリョを伴い大坂城で秀吉に謁見。
87（天正 15）秀吉の九州平定に参加。秀吉のバテレン追放令により、右近の領地没収、追放。小西行長により小豆島にかくまわれる。大村純忠、大友宗麟死去。
88（天正 16）小西行長とともに南肥後へ。秀吉の命令で前田利家預けとなり金沢へ。利家、右近を客将とし、その保護のもと茶人として活躍。宣教活動に入る。細川忠興夫人玉子受洗。
90（天正 18）小田原攻めに出陣。武功を挙げる。
91（天正 19）ヴァリニャーノら秀吉に謁見。
92（天正 20）秀吉、朝鮮半島侵攻 (文禄の役)。
93（文禄 2） フランシスコ会の宣教師来日。大友義統、朝鮮の役の失敗で改易。
95（文禄 4） 父ダリオ逝去。長崎に埋葬。
96（慶長元） 土佐浦戸でスペイン船サン・フェリペ号事件が起こる。
97（慶長 2） 長崎で 26 聖人が殉教。秀吉、2 回目の朝鮮半島出兵（慶長の役）。
98（慶長 3） 秀吉逝去。
99（慶長 4） 前田利家逝去。右近、金沢城を修築。

1600（慶長 5） 細川ガラシヤ、人質を拒否して死す。関ヶ原の戦い。利長に従い大聖寺城を攻略。小西行長処刑。

02（慶長 7） ドミニコ会、アウグスチノ会の宣教師来日。

05（慶長 10）金沢に教会建設。

08（慶長 13）金沢でクリスマスを行う。日本とオランダの国交が始まる。

09（慶長 14）利長の命で右近、高岡城を築城する。

12（慶長 17）岡本大八事件が起こり、家康の教会不信が高まる。

13（慶長 18）伊達政宗の家臣・支倉常長、ヨーロッパへ派遣される。

14（慶長 19）江戸幕府、キリシタン禁令を発布。右近一家、金沢を出て大坂から船で長崎へ。長崎からジャンク船でマニラへ。マニラで大歓迎を受ける。

15（慶長 20）マニラ到着後 40 日ほどで熱病にかかり、2 月 3 日帰天。マニラ市により盛大な葬儀が行われ、イエズス会聖堂に葬られる。享年 63。

2016 (平成 28) 1 月 21 日､教皇フランシスコ､右近の列福を承認